

■ 産業観光部

I 実り多い産業と、人々の集うまちづくり

§2 人が行き交う道路・交通ネットワークづくり

- 県営基幹農道整備事業【幹線道路網の整備】 No.2-7
- 農道台帳管理費【幹線道路網の整備】 No.2-8

§4 人々の交流を盛んにするしくみづくり

- 地域環境資源活用推進事業費【自然や農村環境の資源活用】 No.4-15

§5 もてなしの心があふれる観光地づくり

- 重○**インバウンド推進事業【外国人の笛吹市への来訪促進】 No.5-16
- 重○**外国人移住定住交流推進支援事業【外国人との交流促進】 No.5-17
- 観光宣伝事業費【笛吹市の観光を宣伝】 No.5-18
- 観光イベント事業費【笛吹市の観光イベント】 No.5-19

§6 桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり

- 重○**農業用機械等購入補助事業【農地利用の促進】 No.6-20
- 重○**世界農業遺産登録事業【農業総務費】 No.6-21
- 新規就農者支援事業（新たな農業の担い手の確保） No.6-22
- 援農支援システム構築事業【新たな農業の担い手の確保】 No.6-23
- 鳥獣害等防止対策強化事業【農作物等の鳥獣被害の防止】 No.6-24
- 鳥獣被害対策実施隊設置事業【農作物等の鳥獣被害の防止】 No.6-25
- 有機資源循環型農業推進事業【環境保全型農業への取り組み】 No.6-26
- 農地流動化地域総合推進事業【農地利用の促進】 No.6-27
- 果樹共済加入補助費【農業経営の支援】 No.6-28
- 地域農業振興事業費【農地利用の促進】 No.6-29
- 農産物等消費拡大宣伝事業費【農産物の販路拡大支援】 No.6-30
- 中山間地域等直接支払推進事業【担い手の確保と農地保全】 No.6-31
- 地産地消推進事業【農業経営の支援】 No.6-32
- 県営畑地帯総合整備事業費【農道・水路・圃場等の改修、整備】 No.6-33
- 中山間地域総合整備事業【農道・水路・圃場等の改修、整備】 No.6-34
- 県営用地補償契約事務委託事業費【地元地権者との用地交渉】 No.6-35
- 笛吹川沿岸土地改良事業費【地域給水栓の負担金支払い】 No.6-36
- 土地改良事業費【各種土地改良事業の総合的経費】 No.6-37
- 農業施設整備事業【農業基盤の整備】 No.6-38
- 資源保全事業費【生産性の高い近代的な農業の振興】 No.6-39
- 林道維持管理費【林道の整備】 No.6-40
- 農林水産施設災害復旧費【自然災害からの復旧】 No.6-41

§7 活力ある地域経済づくり

- 重○**プレミアム付商品券発行事業【商品券発行による地域経済の活性化】 No.7-45
- 重○**笛吹市創業支援事業【新たに事業を始める事業者への支援】 No.7-46
- 商工関係団体補助費【商工業団体の育成支援】 No.7-47
- 商工振興災害対策資金事業【東日本大震災により影響を受けた事業者の経営支援】 No.7-48

II 環境にやさしく、安心して健やかに暮らせるまちづくり

§12 憩いと癒しの空間づくり

- 緑化推進事業費【地域緑化の保全と推進】 No.12-40

事務事業名	県営基幹農道整備事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	2	人が行き交う道路・交通ネットワークづくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H16年度～H30年度)	
	1	6	1	5	10	8			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)					(3)平成29年度の具体的な目的・目標					
<p>◇県が計画を進めている高規格農道整備事業、山間地域の優良農地を結ぶことにより、地域農産物の広域・高速出荷を可能とさせる、市は事業費の1/6の負担金を支払う。</p> <p>◇基幹農道整備事業積迦堂地区ではEP交差点の改良と橋梁の架替工事が実施され、東八中央地区では事業認定申請手続きを進めている。市では、工事に伴う用地交渉と契約事務を行った。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 負担金 35,001</p>					<p>【目的】</p> <p>◇高規格農道の整備が円滑にできるよう促す</p> <p>◇農業生産基盤を整備することにより、生産性の高い近代的農業の確立を図る</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇地権者数</p>					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画				
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			県が計画を進めている高規格農道整備工事が円滑に進むよう、事業説明会の開催や用地交渉・契約会を計画的に進める。尚、工事は基本的に農産物の収穫後の秋以降に実施し、会議等は地権者や地元役員の意向により場所、時間帯を設定し実施する。				
		県支出金	千円							
		地方債	千円	22,800	33,200					11,000
		その他	千円							
		一般財源	千円	1,200	1,801					667
	事業費計(A)	千円	24,000	35,001	11,667					
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20					
	人件費計(B)	千円	1,372	1,393	1,393					
トータルコスト(A)+(B)		千円	25,372	36,394	13,060					
補助事業等										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長】</p> <p>この事業は、合併前からの要望を基に、県が主体で行っているものです。また、整備にあたり、市の財政負担が1/6で済むため、財政的な面を考慮しても有効性、効率性がよいため高評価の事業である。しかし、全線中の2ヶ所で未開通の部分があり、早期の着工・開通に向け、県に協力していく。</p>	
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業の完結後には、大きな効果が期待できるため、今後、県と協力して対応していく。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 農道用地権者数 100人 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった	
基幹農道の用地交渉において一部の地権者との交渉が難航しており、一部用地の購入ができていないが、それ以外は順調に工事が進んでいる。今後も誠意を持ってあたり用地交渉にあたり全線開通できるように勤めていく。(延べ人数100人に対し、契約できていない地権者数10人)	

事務事業名	農道台帳管理費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	2	人が行き交う道路・交通ネットワークづくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	50	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
◇農道台帳の更新、補正業務 ◇市で施行する新規の農道工事や農道改良工事又は、県営事業で整備されて市へ譲与された農道等を農道台帳に反映させ市内の農道の管理を行う。 ◇主な事業費(単位:千円) 委託料 9,620 負担金 90		【目的】 ◇市内の農道を適切に管理する。 【目標】(数値化できるものは数値目標) ◇農道管理総延長 320km				
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
事業費 投入量	国庫支出金	千円			◇市で施行する農道改良工事又は、県営事業で整備されて市へ譲与される農道等を農道台帳に反映させるため幅員や長さ、位置、終点起点を整理しておく。	
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	9,702	9,710		9,890
	事業費計(A)	千円	9,702	9,710		9,890
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	
	人件費計(B)	千円	686	697	697	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	10,388	10,407	10,587	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長】 電子データとして、しっかり残しておく必要性は常に高く、精度も要求されることから、今後も継続して台帳整備を行う。
2次評価者【部長】 適正な内容、支出であった。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
目標 市内農道の適正な管理 目標の総延長320km <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった 計画的に土地改良事業等による農道の改良・新設工事を実施しており、これに伴う農道台帳の更新が必要である。現時点において毎年更新しているが予算等の関係ですべてできない状況にあり、今後とも計画的に進めていく。進捗状況は目標値の94%であった。

事務事業名	地域環境資源活用推進事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	4	人々の交流を盛んにするしくみづくり				担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H19年度～H51年度)	
	1	6	1	3	250	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>桃・ぶどうなど、優れた農産物の一層のイメージアップを図るため、生産基盤周辺の豊かな自然環境や農村環境の資源等を活用する。農産物生産の源となるホタルの舞う清らかで豊かな水系環境をアピールするためホタル保護育成団体への助成を行う。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 使用料 30 補助金 650</p>		<p>【目的】 ホタル保護育成団体の活動に対し支援を行い、地域活性化を目指す。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標) ホタル観賞来場者数 400人</p>				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 国庫補助を受けて四ッ沢川のホタル水路を整備しており、施設の耐用年数は30年と長期に渡るが、地元ホタル保護育成団体に継続した支援が必要のため、ホタル保護育成団体への助成を行う。
投入量	事業費	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	680	680	
事業費計 (A)		千円	680	680	680	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.01	0.01	0.01	
	人件費計 (B)	千円	69	70	70	
トータルコスト(A)+(B)		千円	749	750	750	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長・局長】 地域住民が積極的な取り組みを行っており、行政としても支援を行っていくことは妥当と考える。</p>	
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】 最小限の支援の中、多くの地域住民が自主的に活動に参加しており、住民参加のモデルケースとなっている。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 ホタル鑑賞者数 400人</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>石和温泉組合とも連携して、ホタルのシーズンに誘客に努めある程度の来客(約2千人)があった。</p>	

事務事業名	インバウンド推進事業						部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり					担当名	観光振興担当	課長名	菱山 一
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H27年度～)		
	1	7	1	3	20	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 東南アジアを中心に、旅行会社や観光展等に出向き、直接本市の魅力を伝えることにより、旅行商品の企画作成及び送客を働きかける。 ◇主な事業費(単位:千円) 観光物産連盟補助金 4,000			(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 観光展等に出向き、旅行商品の企画作成及び送客依頼を行うとともに、宿泊施設など地元での受入れ体制の強化を図る。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 山梨県観光入込客統計調査報告より 石和・春日居温泉郷宿泊客数のうち外国人 175千人			
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円	13,009		中国・香港・タイなど東南アジアの旅行会社や観光展等を中心に outgoing、直接本市の魅力を伝え旅行商品の企画作成及び送客を働きかける。また、宿泊施設やタクシーなどを対象に外国人観光客接客研修会等を開催し、受入れる側の資質の向上を図り、観光客の満足度を上げるとともに、再訪率を高める。
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	2,050	4,000	
	事業費計(A)	千円	15,059	4,000	4,000	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	
	人件費計(B)	千円	6,860	6,965	6,965	
トータルコスト(A)+(B)		千円	21,919	10,965	10,965	
補助事業等	地域創生先行型交付金					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>来訪が増加している東南アジアを中心とする誘客宣伝活動は、効果的であり、成果は出ている。しかしながら、施設や交通面などにおいて、外国語対応や接し方など、十分な受け入れ体制ができていないため、その強化が急務となっている。</p>
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>今後の誘客宣伝活動においては、世界遺産富士山に頼らない、フルーツ狩り・温泉・体験など、本市の特徴・優位性を明確に打ち出したい。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 外国人宿泊客数 16万人</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>県全体の外国人宿泊者数の速報値は、前年比109.6%となっているため、県観光の宿泊拠点であり、世界遺産富士山に近い本市においても、同様に増加していると捉える。また、平成28年度の見込みは、19万人となっている。</p>

事務事業名	外国人移住定住交流推進支援事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光振興担当	課長名	菱山 一
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H28年度～H30年度)	
	1	7	1	3	10	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標			
海外からの若い世代の訪問客が本市内の若者と交流する機会を織り込んだ旅行企画を推進し、本市の魅力を直接伝えるとともに、将来的には移住・定住を図る。 ◇主な事業費(単位:千円) 観光物産連盟補助金 1,000		【目的】 海外の独身旅行者と本市独身者が交流する旅行企画を推進し、交流によるカップル成立をめざす。 【目標】(数値化できるものは数値目標) ツアー数及び参加者数 1件 10名			
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画
事業費 投入量	国庫支出金	千円			海外の独身旅行者と本市独身者が交流する旅行企画を推進し、本市独身参加者の募集と交流イベントを実施する。
	財源内訳				
	県支出金	千円			
	地方債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円		1,000	
事業費計(A)	千円	0	1,000	1,000	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.10	0.10
	人件費計(B)	千円	0	697	697
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	1,697	1,697
補助事業等					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長・局長】 中国四川省からの誘客を進め、本市参加者も募ったところだったが、残念ながら、中国旅行会社より直近になってキャンセルがあり、実施できなかった。日本に関心があり、来訪が増加している東南アジアを中心に独身旅行者を本市に誘致することは、本市の観光宣伝と魅力向上に効果的であるとともに、本市独身者との交流をきっかけに交際が始まり、将来移住につながることを期待できる。
2次評価者【部長・消防長・支所長】 海外からの婚姻等による移住定住は、少子化や人口減少に向けた対応策として有効と考えるが、国内情勢が安定した親日国を対象に検討したい。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
目標 ツアー数及び参加者数 1件 15名 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった
中国四川省からの誘客を進めたが、参加者のキャンセルがあり実施できなかった。開催予定が春節祭の時期と重なったため中国国内の有力イベントへ向いたと思われるため、今後は、開催する時期について再検討が必要である。

事務事業名	観光宣伝事業費						部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり					担当名	観光振興担当	課長名	菱山 一
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	7	1	3	20	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) キャンペーン活動及び各種広告媒体を活用した宣伝活動を行い、魅力発信による観光振興を図る。 ◇主な事業費(単位:千円) 旅費 536 需用費 2,563 役務費 957 アプリ保守委託料 1,300 観光物産連盟補助金 16,000			(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 キャンペーン活動及び各種広告媒体を活用した宣伝活動を行い、魅力発信による観光振興を図る。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 山梨県観光入込客統計調査報告より 笛吹市内宿泊者数 120万人				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 年間を通して、新聞・雑誌及びテレビ・ラジオ等広告媒体による宣伝活動を行う。 観光キャンペーンは、県やJR・ネクスコ等と適宜実施する。 市長トップセールスは、香港ほか東南アジア及び都内大手旅行会社を訪問予定。	
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円	8,000			
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円	14,684	16,000		16,000
		一般財源	千円	17,641	5,356		27,896
事業費計 (A)		千円	40,325	21,356	43,896		
人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	2.00	2.00		
	人件費計 (B)	千円	13,720	13,930	13,930		
トータルコスト(A)+(B)		千円	54,045	35,286	57,826		
補助事業等	地域創生先行型交付金						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
1次評価者【課長・局長】 キャンペーン及び各種広告媒体を活用した宣伝活動により、イベントなど観光資源や魅力を発信することは観光振興のためには必要である。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 宣伝活動の成果はすぐには見えて来ないが、継続的にキャンペーンや各種広告を実施することにより知名度が上って来ると思う。	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載) 目標 笛吹市内宿泊者数 115万人 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった 県全体の宿泊者数の速報値は、前年比99.6%となっているため、県観光の宿泊拠点である本市においても同様と見込まれ概ね達成できる予定である。	

事務事業名	観光イベント事業費						部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり					担当名	観光振興担当	課長名	菱山 一
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	7	1	3	30	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
観光資源を活用した各種イベント事業を実施し、魅力発信による観光振興を図る。 ◇主な事業費(単位:千円) ハウス桃花見委託料等 4,942 桃源郷春まつり補助金 38,800 夏祭り補助金 21,550 スポーツイベント補助金 500 鵜飼事業委託料等 5,432		【目的】 観光資源を活用した各種イベント事業を実施し、魅力発信による観光振興を図る。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 笛吹市観光物産連盟集計報告より 春・夏まつり来場者数 29万人				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画
投入量	事業費	国庫支出金	千円			桃源郷春まつり、夏祭り、秋はワイン・トレイルラン・サイクリング関連、冬はハウス桃花見など、時期毎にイベントを実施する。
		財源内訳				
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円	2,883	2,000	
	一般財源	千円	64,712	70,818	86,350	
	事業費計(A)	千円	67,595	72,818	88,350	
人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	2.00	2.00	
	人件費計(B)	千円	13,720	13,930	13,930	
トータルコスト(A)+(B)		千円	81,315	86,748	102,280	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
1次評価者【課長・局長】 各時期毎にイベントを実施しており、旬の魅力を発信することは観光振興のためには必要である。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 イベントの開催により、旬の魅力を発信することは観光振興に繋がるが、宿泊を伴うよう単発ものは一定期間型へと検討を進めたい。	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 笛吹市春・夏まつり来場者数 345千人 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった	
四季それぞれの旬の魅力を伝えるイベントは人気があり、人出は28万人ありH27年度283千人とほぼ同等であった。	

事務事業名	農業用機械等購入補助事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H26年度～)	
	1	6	1	3	210	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標					
<p>市の農業の将来を担う認定農業者、新規就農者に対し農作業の軽減及び機械化を推進・支援するために、農作業に必要な農業用機械の購入費・リース費を補助する。</p> <p>◇平成28年度の主な事業費(単位:千円) 補助金 10,277</p>		<p>【目的】 年間を通して、市の農業の将来を担う認定農業者、新規就農者に対し、農作業の軽減及び機械化を推進・支援するために、農作業に必要な農業用機械の購入費・リース費を補助する</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>・認定農業者数 970人</p>					
(2) 総事業費の推移		27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)			
投入量	事業費	国庫支出金	千円		(4)平成29年度の実施計画 年間を通して、農作業に必要な農業用機械の購入費・リース費を補助する。 ○農業用機械購入補助 ・補助率1/5(限度額100千円) ○就農支援リース補助 ・補助率 リース料のうち物件購入価格の1/3以内		
	事業内訳	県支出金	千円	277		1,600	
		地方債	千円				
		その他	千円				
		一般財源	千円	12,426		10,000	10,800
	事業費計 (A)		千円	12,426		10,277	12,400
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.10		0.10	0.10
人件費計 (B)		千円	686	697	697		
トータルコスト(A)+(B)		千円	13,112	10,974	13,097		
補助事業等	果樹王国やまなし就農支援事業						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>農作業の軽減及び機械化を推進・支援及び、認定農業者になる動機付けに有効な事業である。農業者側からも好評を得ており、一層の充実を要望されている。</p>
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>認定農業者の登録を促す重要な事業となっている。今後、平成28年度から開始した就農支援リース補助事業についても広く周知していきたい。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 認定農業者数 830人を目標とした。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>年度当初計画では認定農業者数を830人を目標とした。実績値は認定農業者数914人。目標は達成できたと言える。</p>

事務事業名	世界農業遺産登録事業						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H27年度～H29年度)		
	1	6	1	2	1	2				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 「世界農業遺産への認定申請に係る承認」及び「日本農業遺産への認定」を目指す事業を行う。 ◇主な事業費(単位:千円) 負担金 681		(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 「世界農業遺産への認定申請に係る承認」及び「日本農業遺産への認定」 【目標】(数値化できるものは数値目標) 「世界農業遺産への認定申請に係る承認」及び「日本農業遺産への認定」			
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 「世界農業遺産への認定申請に係る承認」及び「日本農業遺産への認定」がされるよう事業実施を行う。
事業費 投入量	国庫支出金	千円			
	財源内訳				
	県支出金	千円			
	地方債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	2,000	681	2,000
事業費計 (A)	千円	2,000	681	2,000	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	6,860	6,965	6,965
	トータルコスト(A)+(B)	千円	8,860	7,646	8,965
補助事業等					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長・局長】 笛吹市・山梨市・甲州市の峡東3市と山梨県で行っている事業であることから、事業全体としての評価は困難である。市としては、認定に向けた市民会議の開催をはじめ、峡東地域協議会の行う事務事業への積極的な参加・協力等、評価できる取り組みを行っている。
2次評価者【部長・消防長・支所長】 笛吹市・山梨市・甲州市の峡東3市と山梨県で行っている事業となり特に評価は行わない。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載) 目標 「世界農業遺産への認定申請に係る承認」及び「日本農業遺産への認定」一次審査通過 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった 平成28年度においては、一次審査を通過し現地審査が行われたため、概ね目標は達成されたと考えている。

事務事業名	新規就農者支援事業						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H22年度～)		
	1	6	1	2	50	3				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>30歳未満の新規就農農業後継者(年間150日以上農業従事、確定申告時に事業専従者)に対し、支援として1世帯あたり月額30,000円以内(30歳になる月の前月まで)を月単位で交付する。 また、45歳未満で、Iターン、Uターンにより経営主として農業を開始する新規就農者に対し、Iターンは年1,000,000円を、Uターンは年500,000円を2年間交付する。 ◇主な事業費(単位:千円) 補助金 7,400</p>		<p>【目的】 新規就農者・後継者を対象に補助金を交付し市内農業を活性化させる。 【目標】(数値化できるものは数値目標) ・新規就農者 Iターン2人、Uターン2人 ・新規就農後継者 15人</p>				
(2) 総事業費の推移		27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)		
投入量	事業費	国庫支出金	千円			(4)平成29年度の実施計画 農業従事者の高齢化及び後継者不足が進む中、将来に渡り新たな農業の担い手を確保し、地域農業の振興を図る。 年間を通じて申請受付・補助金交付を行う。 ○30歳未満の新規就農農業後継者(年間150日以上農業従事、確定申告時に事業専従者)に対し、支援として1世帯あたり月額30,000円以内(30歳になる月の前月まで)を月単位で交付する。 ○45歳未満で、Iターン、Uターンにより経営主として農業を開始する新規就農者に対し、Iターンは年1,000,000円を、Uターンは年500,000円を2年間交付する。
		財源内訳				
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
	一般財源	千円	5,260	7,400	8,400	
	事業費計(A)	千円	5,260	7,400	8,400	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	
	人件費計(B)	千円	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	5,946	8,097	9,097	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長・局長】 独立就農を目指す新規就農者や農業後継者にとって、補助金額は、充分とはいえないが、就農の動機付けとして、また国の制度を補完する目的で制定された制度であるので有効な制度と考える。</p>	
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】 就農の動機付けとして、また国の制度を補完する本市独自の制度であり、農業者からも好評を得ていることから、妥当性・有効性のあるものと評価できる。 今後、年齢を含めた対象者の見直しなど、ビルドアップを検討したい。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 新規就農者(Iターン・Uターン) + 新規就農後継者 を17名を目標とした。</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p>	
<p>年度当初計画では新規就農者Iターン1人、Uターン1人、新規就農後継者15人を想定。実績値は新規就農者Uターン2人、新規就農後継者14名に補助金交付ができたため目標は概ね達成できたと言える。</p>	

事務事業名	援農支援システム構築事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H21年度～)	
	1	6	1	2	80	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 「援農支援センター」へ新規就農者や農作業の補助者(援農者)の農業技術講習会等の企画、研修実施を委託する。 ◇主な事業費(単位:千円) 補助金 4,200		(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 年間を通して委託先である「援農支援センター」にて農業技術講習会等を実施し、新規就農者・援農者を育成し担い手不足を解消する。 【目標】(数値化できるものは数値目標) ・講習会実施数 28回 ・講習会参加者数 730人 ・認定農家数 850人			
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 年間を通して委託先である「援農支援センター」にて農業技術講習会等を実施する。 ・果樹管理講習会(5月～6月) ・桃の秋季剪定講習会(9月) ・土づくりと施肥管理講習会(9月) ・果樹剪定講習会(11月～12月) ・機械取扱講習会(1月) ・果樹病虫害防除講習会(2月)
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円		
		県支出金	千円		
		地方債	千円		
		その他	千円		
		一般財源	千円	4,000	4,200
	事業費計(A)	千円	4,000	4,200	4,200
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10
	人件費計(B)	千円	686	697	697
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,686	4,897	4,897
補助事業等					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長・局長】 これまでと同様に受講者の増加を目指し、農繁期などの農家の労働力不足解消を目指す。
2次評価者【部長・消防長・支所長】 担い手育成を行う上で有効な取り組みである。 今後、高齢化が進む中で、スムーズな経営移譲(第3者を含む)が可能なシステムづくりに取り組むことも検討したい。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載) 目標 講習会実施回数 28回、講習会参加者 730人、認定農家数 830人を目標とした。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった 年度当初計画では講習会実施回数28回、講習会参加者730人、認定農家数830人を目標とした。実績値は講習会実施回数28回、講習会参加者数980人、認定農家数914人。目標は達成できたと言える。

事務事業名	鳥獣害等防止対策強化事業費						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	3	50	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)						(3)平成29年度の具体的な目的・目標						
有害鳥獣被害防止対策事業の推進。また、アメリカシロヒトリを広域的かつ一斉に防除することにより、防除効果を高め、生活環境保持と農作物への被害防止、緑化思想の啓蒙を図る。 ・イノシシ、サルへの捕獲報奨金支払・各地区猟友会への有害鳥獣捕獲委託・有害鳥獣被害防止電気柵設置補助金交付・獣害防止柵の設置、補修原材料の支給・笛吹市鳥獣被害防止対策協議会への活動補助 ◇主な事業費(単位:千円) 報償費 5,850 委託料 2,630 原材料費 3,000 補助金 2,157						【目的】 有害鳥獣被害防止対策事業の推進。市内農地を対象に電気柵等の設置に対する補助金交付、猟友会に有害鳥獣の捕獲を委託。 【目標】(数値化できるものは数値目標) ・電気柵等の補助金額 3,000千円 ・イノシシ、シカ、サルの捕獲数 355頭						
(2) 総事業費の推移						(4)平成29年度の実施計画						
		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	年間を通して有害鳥獣被害防止電気柵設置等補助金の交付。イノシシ、サルへの捕獲報奨金支払・各地区猟友会への有害鳥獣捕獲委託。						
投入量	事業費	国庫支出金	千円			○有害鳥獣被害防止電気柵設置等補助金						
		県支出金	千円	1,152	3,045	2,897	・個人で設置したもの 補助対象経費の1/2以内(限度額40,000円)					
		地方債	千円				・集団で設置したもの 補助対象経費の1/2以内(限度額300,000円)					
		その他	千円				○捕獲奨励金					
		一般財源	千円	7,354	12,361	11,042	・イノシシ捕獲奨励金 15,000円/頭 ・ニホンジカ捕獲奨励金 15,000円/頭 ・ニホンザル捕獲奨励金 30,000円/頭					
事業費計(A)		千円	8,506	15,406	13,939							
人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.50	0.50							
	人件費計(B)	千円	3,430	3,483	3,483							
トータルコスト(A)+(B)		千円	11,936	18,889	17,422							
補助事業等		特定鳥獣保護管理事業費補助金、新規狩猟者確保対策事業費補助金、ツキノワグマ放獣事業費補助金										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。										
1次評価者【課長・局長】 圃場主が自ら設置する電気柵補助金対応は、被害を受けてからの対応となる。有害鳥獣の駆除は、地元猟友会に委託しているが、狩猟者が減少傾向である上に、有害獣が急激に増加しており、捕獲者の安全対策も講じる必要がある。										
2次評価者【部長・消防長・支所長】 圃場主が自ら設置する電気柵補助金対応は、被害を受けてからの対応となる。有害獣が急激に増加していることから、囲いワナの設置等、地域・地元猟友会と積極的な連携を図る中で対応していく必要がある。										
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)										
目標 電気柵等補助金額1,357千円、イノシシ、シカ、サルの捕獲数 180頭										
<input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
実績値は電気柵等補助金額3,000千円、イノシシ、シカ、サルの捕獲数355頭と目標は概ね達成できているが、被害面積は若干増加している。捕獲頭数も年々増加していることから、今後、更なる対策が必要だと思われる。										

事務事業名	鳥獣被害対策実施隊設置事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H28年度～)	
	1	6	1	3	50	2			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標			
<p>近年民家付近や道路に有害獣が頻繁に出没しているため鳥獣被害対策実施隊を設置し、猟友会員から選出された隊員により追い払い・捕獲を行う。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 非常勤特別職報酬 182</p>		<p>【目的】 近年民家付近や道路に、有害獣が頻繁に出没しているため、今年度から鳥獣被害対策実施隊を設置し、猟友会員から選出された隊員により追い払い・捕獲を行う。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標) ・活動延べ人数 50名</p>			
(2) 総事業費の推移		27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円		
		県支出金	千円		
		地方債	千円		
		その他	千円		
		一般財源	千円	182	424
	事業費計 (A)	千円	182	424	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10
人件費計 (B)		千円	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	879	1,121	
補助事業等					
(4)平成29年度の実施計画		農作物の被害を防止するため、民家付近や道路に有害獣が頻繁に出没した場合、年間を通して隊員により有害獣の緊急的な追い払い・捕獲を実施する。1日1人2,500円の報酬。			

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長・局長】 平成28年度からの新規事業ではあるが、市内猟友会から選出された隊員の協力により、緊急的な有害獣追い払い・捕獲が実施でき、一定の効果が得られた。</p>	
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】 今年度からの事業であったが、隊員の方々の迅速・臨機応変な対応により成果をあげることができた。今後、活動内容の精査等を踏まえながら進めていきたい。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 活動延べ人数50名を目標。</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p>	
<p>年度当初計画では活動延べ人数50名を目標とした。実績値は活動延べ人数48名。目標はおおむね達成できたと言える。</p>	

事務事業名	有機資源循環型農業推進事業						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H19年度～)		
	1	6	1	3	210	3				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

<p>(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)</p> <p>・バイオマス資源である果樹剪定枝、生ごみを堆肥原料化し、環境保全型農業による農業、観光、地域の循環型社会を目指す。</p> <p>①学校給食および一般家庭から回収した生ごみを大型生ごみ処理機で堆肥原料化し、市民に無償提供する。</p> <p>②有用微生物活性液製造装置を購入し、生産した活性液を、農家及び市民に無償提供し、有機栽培技術の普及を行う。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>委託料 3,782 原材料費 1,833 負担金 4,128</p>						<p>(3)平成29年度の具体的な目的・目標</p> <p>【目的】 環境保全型農業による農業、観光、地域の循環型社会を目指す。学習会の開催、生ゴミを回収し堆肥化し市民に無償提供。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥等配布戸数(延べ) 4,800戸 ・EM活性液配布量 32,000L ・生ゴミ堆肥生産量 68,623kg 																																																					
<p>(2) 総事業費の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>27年度 (決算)</th> <th>28年度 (決算見込)</th> <th>29年度 (当初予算)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">事業内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>千円</td> <td>10,216</td> <td>12,489</td> <td>11,204</td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>千円</td> <td>10,216</td> <td>12,489</td> <td>11,204</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人件費</td> <td>正規職員延従事人数</td> <td>人</td> <td>0.50</td> <td>0.50</td> <td>0.50</td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>千円</td> <td>3,430</td> <td>3,483</td> <td>3,483</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>千円</td> <td>13,646</td> <td>15,972</td> <td>14,687</td> </tr> </tbody> </table>						単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	事業内訳	国庫支出金	千円			県支出金	千円			地方債	千円			その他	千円			一般財源	千円	10,216	12,489	11,204	事業費計(A)	千円	10,216	12,489	11,204	人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.50	0.50	人件費計(B)	千円	3,430	3,483	3,483	トータルコスト(A)+(B)		千円	13,646	15,972	14,687	<p>(4)平成29年度の実施計画</p> <p>学校給食および一般家庭から回収した生ごみを大型生ごみ処理機で堆肥原料化し、市民に無償提供する。有用微生物活性液製造装置を購入し、生産した活性液を、農家及び市民に無償提供し、有機栽培技術の普及を行う。</p>					
単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)																																																								
事業内訳	国庫支出金	千円																																																									
	県支出金	千円																																																									
	地方債	千円																																																									
	その他	千円																																																									
	一般財源	千円	10,216	12,489	11,204																																																						
事業費計(A)	千円	10,216	12,489	11,204																																																							
人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.50	0.50																																																						
	人件費計(B)	千円	3,430	3,483	3,483																																																						
トータルコスト(A)+(B)		千円	13,646	15,972	14,687																																																						
補助事業等																																																											

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

<p>(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。</p> <p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>環境保全型農業を推進する上で象徴的の事業の一つとなっている。製造した堆肥等は人気があり即日消費される。実証実験的に地域・対象を限定して行い一定の成果を収めたことから、当該施設の民間移譲を含め検討したい。</p> <p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>環境保全型農業を推進する上で象徴的の事業の一つとなっている。製造した堆肥等は人気があり即日消費される。上記のように、有償民間譲渡の検討と共に、各地域の給食センターへの処理機設置等、違う形での事業推進も検討したい。</p>					
<p>(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)</p> <p>目標 配布戸数4800戸(延べ)、EM活性液配布量32,000L、生ゴミ堆肥生産量68,623kg</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>年度当初計画では配布戸数4800戸(延べ)、EM活性液配布量32,000L、生ゴミ堆肥生産量68,623kgを目標とした。実績値は配布戸数5000戸(延べ)、EM活性液配布量33,000L、生ゴミ堆肥生産量64,000kg。生ゴミ堆肥生産量のみ目標値を下回ったが、目標に対してはおおむね達成できたと言える。</p>					

事務事業名	農地流動化地域総合推進事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	3	300	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標					
農地利用促進事業・市民農園の運営 ・遊休農地の解消を図るため、農用地の借り手に対して農地流動化奨励補助金を交付する。 ・ふれあい農園の運営及び石和ミニ農園の運営事務補助 ◇主な事業費(単位:千円) 補助金 6,550		【目的】 認定農業者、中核的農家を対象に遊休農地の解消を図るため、農用地の借り手に対して農地流動化奨励補助金を交付し遊休農地解消、担い手への農地集積を図る。 【目標】(数値化できるものは数値目標) ・新たに利用集積された耕作面積 27.6ha					
(2) 総事業費の推移		27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)			
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			(4)平成29年度の実施計画 農地利用促進事業・市民農園の運営 ・遊休農地の解消を図るため、農用地の借り手に対して農地流動化奨励補助金を交付する。 ・ふれあい農園の運営及び石和ミニ農園の運営事務補助 ○農地流動化奨励補助金 ・新規設定(基準) 20円/m ² ・認定農業者加算 20円/m ² ○ふれあい農園賃料 ・1区画(約30m ²) 3,000円/年	
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円	182	180		180
		一般財源	千円	7,346	6,370		5,766
	事業費計(A)	千円	7,528	6,550	5,946		
人件費	正規職員延従事人数	人	0.30	0.30	0.30		
	人件費計(B)	千円	2,058	2,090	2,090		
トータルコスト(A)+(B)		千円	9,586	8,640	8,036		
補助事業等		ふれあい農園貸付料、特定法人貸付事業					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
1次評価者【課長・局長】 意欲ある借り手に対して補助金を交付したり、市民農園を貸し出すことにより、遊休農地の未然防止と担い手への農地集積が同時に行われるため、今後も効率よく農地の活性化を図ることが期待できる。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 上記に加え、売買により取得した農地集積にたいする補助制度についても検討する必要がある。 有効性については、評価する。	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 新たに利用集積された耕作面積 27.6ha <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった	
年度当初計画では新たに利用集積された耕作面積 27.6haを目標とした。実績値は利用集積された耕作面積 27.5ha。目標に対してはおおむね達成できたと言える。	

事務事業名	果樹共済加入補助費						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	2	60	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 果樹共済の加入促進 ◇主な事業費(単位:千円) 補助金 6,279						(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 近年の異常気象による農産物被害の金銭的費用を軽減して、農家の経営安定に繋げる。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 果樹共済加入面積 70ha				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 加入推進については、農業協同組合及び山梨中央農済が行っているが、必要に応じて広報誌等で加入の宣伝を行う。				
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円	6,271	6,279	7,000			
	事業費計(A)	千円	6,271	6,279	7,000					
人件費	正規職員延従事人数	人	0.01	0.01	0.01					
	人件費計(B)	千円	69	70	70					
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,340	6,349	7,070					
補助事業等										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。										
1次評価者【課長・局長】 農業者の経営安定の為に必要な制度であり、その農業者側からもその実効性について評価を得ている。										
2次評価者【部長・消防長・支所長】 自然災害は農業経営に重大な影響を及ぼすため、農業共済制度はこれからも必要な事業と考える。										
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)										
目標 共済加入目標面積 62.8ha										
<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
概ね前年並の加入面積 (62.8ha) があった。										

事務事業名	地域農業振興事業費						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	3	210	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 市内の農業環境を整備するため国、県の補助事業及び市単独補助事業を導入して事業を実施する。 ◇主な事業費(単位:千円) 需用費 50 補助金 521,304						(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 市内の農業環境を整備する。 【目標】 (数値化できるものは数値目標) 遊休農地の発生抑制と解消に努める。					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 平成29年度は、市単補助事業の遊休農地解消活用推進事業により遊休農地約1haの解消を図る。					
投入量	事業費	国庫支出金	千円								
		財源内訳									
		県支出金	千円	11,191	436,487	264					
		地方債	千円								
		その他	千円		1,800						
	一般財源	千円	13,499	83,067	1,419						
	事業費計 (A)	千円	24,690	521,354	1,683						
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00						
	人件費計 (B)	千円	6,860	6,965	6,965						
トータルコスト(A)+(B)		千円	31,550	528,319	8,648						
補助事業等											

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。										
1次評価者【課長・局長】 補助金規定により適切に支出している。 遊休農地解消に向けた一助となっており、一定の成果、有効性が得られている。										
2次評価者【部長・消防長・支所長】 農業振興を進めるには、遊休農地の解消は不可欠であるため引き続き事業を継続する。										
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)										
目標 遊休農地解消面積 1ha										
<input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
平成28年度においては、遊休農地の解消約1haが概ね図れた。										

事務事業名	農産物等消費拡大宣伝事業費						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	3	230	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 桃・ぶどうを主とする果実及び市内産農畜水産物及びその加工品等について国内外で消費宣伝事業を行い、もって全国に笛吹市を知らしめる。 ◇主な事業費(単位:千円) 旅費 289 需用費 644 委託料 5,017						(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 市産の農産物の消費拡大により農業振興へ繋げる。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 市産農畜産物の消費拡大宣伝により、市の知名度向上を図る。				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 平成29年度は、国内は東京大田市場(平成29年6月)・大阪本場市場等(平成29年7月)都市圏の仲卸や消費者、国外は香港・台湾(平成29年7～8月)の富裕層を対象に農産物の有利販売を行い農業者の所得向上に繋げる。				
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円						
			県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円	10,871	5,950	6,844			
	事業費計(A)	千円	10,871	5,950	6,844					
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00					
	人件費計(B)	千円	6,860	6,965	6,965					
トータルコスト(A)+(B)		千円	17,731	12,915	13,809					
補助事業等										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。										
1次評価者【課長・局長】 地道な消費拡大宣伝を行った結果、県内農産物物の平均単価を上回っており成果は上がっている。										
2次評価者【部長・消防長・支所長】 消費拡大宣伝は継続して行わないと効果が出てこないため、地道な事業実施が必要である。										
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)										
目標 農畜産物等の平均販売価格										
<input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
平成28年度においては、県内他町村と比較して桃の平均販売価格がキロ100円高く有利に販売が図れた。										

事務事業名	中山間地域等直接支払推進事業費						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	3	260	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>中山間地域において適切な農業生産活動等が継続されるよう、農業生産の不利を補正する支援事業として、集落協定を締結し、集落活動に取り組む集落に直接支払交付金を交付する。 市内6集落協定</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 報償費 90 需用費 150 役務費 8 交付金 2,035</p>		<p>【目的】 中山間地域において適切な農業生産活動等が継続されるよう農業生産の不利を補正する支援を行う。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標) 中山間地域において適切な農業生産活動等が継続されるよう事業を行う。</p>				
(2) 総事業費の推移		27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)		
投入量	事業費	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円	1,595	6,400	1,567
		地方債	千円			
		その他	千円		231	
		一般財源	千円	848	350	767
	事業費計(A)		千円	2,443	6,981	2,334
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.70	1.00	0.70
		人件費計(B)	千円	4,802	6,965	4,876
	トータルコスト(A)+(B)		千円	7,245	13,946	7,210
	補助事業等	中山間地域等直接支払交付金、中山間地域等直接支払推進事業費補助金				

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長・局長】 中山間地域等の農業生産不利地域では、集落協定を締結し集落活動に取り組む集落に直接支払交付金を交付することで、新たな遊休農地の発生抑制に繋がっている。</p>
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】 遊休農地の発生抑制に一定の効果があるので、継続して事業実施する必要はある。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 中山間地域において適切な農業生産活動等の継続</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>平成28年度においては、事業実施した地区では遊休農地が新たに発生することが抑制でき適切な農業生産活動等の継続がされた。</p>

事務事業名	地産地消推進事業費						部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	7	20	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 八代・境川・春日居農産物直売所及び八代・境川農産物加工センターの維持管理指導 ◇主な事業費(単位:千円) 需用費 1,310 役務費 103 委託料 840 使用料 1,278 工事請負費 561						(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 八代・境川・春日居農産物直売所及び八代・境川農産物加工センターの維持管理指導。 【目標】 (数値化できるものは数値目標) 農業関係施設の適切な運営と管理を行う。					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 平成29年度は、八代・境川・春日居農産物直売所及び八代・境川農産物加工センターの維持管理指導を実施する。 境川農産物加工センターについては、平成30年度より指定管理を終了し、石橋区の管理に移行させる。					
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円	4,432	4,177	6,703					
	事業費計 (A)	千円	4,432	4,177	6,703						
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20						
	人件費計 (B)	千円	1,372	1,393	1,393						
トータルコスト(A)+(B)		千円	5,804	5,570	8,096						
補助事業等											

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。										
1次評価者【課長・局長】 市農産物の情報発信拠点として、指定管理施設の適正な指導及び管理を行っている。将来に向け、民間移行も視野に入れるが、国庫補助の償却年数等の制約もある施設があることから、当面、指定管理を継続したい(境川加工施設を除く)。										
2次評価者【部長・消防長・支所長】 施設の維持管理については、特段問題なく行われた。										
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)										
目標 農業関係施設の適切な運営と管理を行う。										
<input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
平成28年度においては、小修繕は有ったが特段問題なく施設の維持管理を図れた。										

事務事業名	県営畑地帯総合整備事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H16年度～H35年度)	
	1	6	1	5	10	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)					(3)平成29年度の具体的な目的・目標					
◇県が市の要望に基づき樹園地内の農道、水路、圃場整備等の改修、整備を行う事業で、市は事業費の25%の負担金を支払う。 ◇、御坂大野寺地区、一宮南部地区、笛吹川左岸地区、黒駒西地区、藤袋地区、みさか桃源の郷地区の事業を計画的に実施している。 ◇事業主体である県と地元役員・地権者との連絡調整や事業説明会の開催、現地境界確認等の事業推進に必要な事務作業を計画的に進めている。 ◇主な事業費(単位:千円) 報賞費 1,239 負担金 149,908					【目的】 ◇農道が整備され畑に行きやすくなる。 ◇圃場整備で畑が整形されて耕作しやすくなる。 ◇農道が拡幅舗装されることで生産物の流通が円滑になる。 【目標】(数値化できるものは数値目標) ◇整備延長					
(2) 総事業費の推移					(4)平成29年度の実施計画					
		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	◇県営畑総事業は、一宮南部地区、黒駒西地区、藤袋地区、みさか桃源の郷の4地区の事業を計画的に地元要望の順序に基づき実施する。 ◇事業主体となる県と地元役員・地権者との連絡調整や事業説明会の開催、現地境界確認等の事業推進に必要な事務作業を計画的に進める。基本的に工事は農作物の収穫後に行い地元地権者や地元役員との事業説明会等の会合は地元の意向により場所、時間帯を設定し実施する。				
投入量	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円	59,100	142,400	61,700				
		その他	千円	393	3,239	1,840				
		一般財源	千円	4,513	5,508	3,350				
	事業費計(A)	千円	64,006	151,147	66,890					
人件費	正規職員延従事人数	人	1.30	1.30	1.30					
	人件費計(B)	千円	8,918	9,055	9,055					
トータルコスト(A)+(B)		千円	72,924	160,202	75,945					
補助事業等										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。									
1次評価者【課長】 地域や市の要望を基に市の財政負担25%で、農業基盤の整備を県が行うこの事業は有効性があり、効率性もよいため高評価で、今後も他地区からの要望もある。しかし、事業期間は8～10年と長く、総体事業費も多額なこと、完成までに農業者の高齢化が進むことや広域的で即効力のある有害獣対策が出来ない等があり、着手前から後継者の確保育成等の課題など、詳細な将来ビジョンを構築していく必要がある。									
2次評価者【部長】 事業として適正であり、効果もあった。									
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)									
目標 農業基盤整備延長 農道・水路整備 目標3000m									
<input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった									
畑総事業の農業基盤整備については、地元の希望順位に基づき実施しているが、用地交渉等により希望どおりに工事が進捗できない場合も生じたが、今後も地元と協力して事業を進め農業基盤整備をすることで、農作業の効率化につなげ生産性の向上を図る。農道・水路延長2400mを整備済									

事務事業名	中山間地域総合整備事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H16年度～H31年度)	
	1	6	1	5	10	5			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標								
<p>◇県が市の要望に基づき、地理的条件が悪く農業の生産条件が不利な地域を対象に、農業生産基盤と農村生活環境基盤の整備を総合的に行う事業で、市は事業費の15%の負担金を支払う。</p> <p>◇黒駒東地区の事業を計画的に地元要望の順序に基づき実施している。</p> <p>◇事業主体である県と地元役員・地権者との連絡調整や事業説明会の開催、現地境界確認等の事業推進に必要な事務作業を計画的に進めている。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 報賞費 231 負担金 6,750</p>		<p>【目的】</p> <p>◇農道が整備され畑に行きやすくなる。</p> <p>◇圃場整備で畑が整形されて耕作しやすくなる。</p> <p>◇農道が拡幅舗装されることで生産物の流通が円滑になる。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇整備延長 300m</p>								
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画				
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			<p>◇県営中山間事業は、黒駒東地区を計画的に地元要望の順序に基づき実施する。</p> <p>◇事業主体である県と地元役員・地権者との連絡調整や事業説明会の開催、現地境界確認等の事業推進に必要な事務作業を計画的に進める。基本的に工事は農作物の収穫後に行い、地元地権者や地元役員との事業説明会等の会合は、地元の意向により場所、時間帯を設定し実施する。</p>				
		県支出金	千円							
		地方債	千円	14,700	6,400					15,600
		その他	千円	336	231					
		一般財源	千円	845	350					900
	事業費計(A)	千円	15,881	6,981	16,500					
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20					
	人件費計(B)	千円	1,372	1,393	1,393					
トータルコスト(A)+(B)		千円	17,253	8,374	17,893					
補助事業等										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長】</p> <p>地域や市の要望を基に市の財政負担15%で、農業基盤の整備を県が行うこの事業は有効性があり、効率性もよいため高評価で、今後も他地区からの要望もある。しかし、事業期間は8～10年と長く、総体事業費も多額なこと、完成までに農業者の高齢化が進むことや広域的で即効力ある有害獣対策が出来ない等があり、着手前から後継者の確保育成等の課題など、詳細な将来ビジョンを構築する必要がある。</p>	
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業として適正であり、効果もあった。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 農業基盤整備(農道整備延長300m、鳥獣害防護柵640m)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>中山間地域総合整備事業の農業基盤整備については、地元の希望順位に基づき実施しているが、国からの補助金が予定より少なかったため希望通りの延長分の工事が進捗できなかったが予算分はすべて工事が完了した。今後も地元と協力して事業を進め農業基盤整備をすることで、農作業の効率化につなげ生産性の向上を図る。農道整備90m、鳥獣害防護柵整備640m。</p>	

事務事業名	県営用地補償契約事務委託事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	10	6			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>◇県営土地改良事業実施に伴う地元地権者との用地交渉を行うにあたり、必要な諸経費を計上し事務を進める。</p> <p>◇県営事業用地地権者へ事業説明や用地・補償交渉のための通知文の発送や契約場所の確保、資料の作成、印刷などの事務作業を行う。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 旅費 41 需用費 410 役務費 10 使用料及び賃借料 40</p>		<p>【目的】</p> <p>◇事業説明と用地交渉による用地補償契約の締結と事業の推進。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇受益農家戸数</p>				
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
事業費 投入量	国庫支出金	千円			◇県営事業である畑総、中山間、基幹農道整備事業の年度計画を推進するため、地元地権者との用地交渉をスムーズに進めるための事業説明会開催や用地交渉のための連絡調整を計画的に実施する。	
	県支出金	千円	280	200		
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	112	301		200
	事業費計(A)	千円	392	501		400
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	
	人件費計(B)	千円	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,078	1,198	1,097	
補助事業等	県営用地補償契約事務委託料					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長】</p> <p>県と同調して地元地権者との用地交渉にあたることができたため、事業の円滑な推進が行えた。</p>
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業の効果は満足のゆくものであった。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 土地改良事業に係る延べ受益者数4978戸</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>県営事業である畑総、中山間、基幹農道整備事業の年度計画を推進するため、地元地権者との用地交渉をスムーズに進めるための事業説明会開催や用地交渉のための連絡調整を計画的に実施することができた。</p>

事務事業名	笛吹川沿岸土地改良事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	20	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標					
<p>◇既に事業完了した笛吹川沿岸畑かん施設等の維持管理及び建設にかかった事業費の市負担金の支払いを行う。</p> <p>◇地域給水栓の維持管理を行う。</p> <p>◇笛吹川沿岸土地改良事業等の負担金の支払と地域給水栓の凍結等による破裂の修繕を実施した。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 需用費 804 負担金 138,179</p>		<p>【目的】</p> <p>◇農業用水を安定的に使用できる。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇受益農家戸数 4187戸</p>					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
事業費 投入量	国庫支出金	千円					<p>◇既に事業完了した笛吹川沿岸畑かん施設等の建設にかかった事業費と、施設の老朽化による維持管理に必要な費用の市負担金の支払いを行う。</p> <p>◇地域給水栓が何らかの理由により破損が生じた時は、速やかに修理を行い、農業用水の確保を行う。</p>
	県支出金	千円					
	地方債	千円					
	その他	千円		40	1		
	一般財源	千円	138,516	140,443	135,594		
	事業費計(A)	千円	138,516	140,483	135,595		
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10		
	人件費計(B)	千円	686	697	697		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	139,202	141,180	136,292		
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長】</p> <p>笛吹川沿岸畑かん施設の維持管理に係る負担金の支払については、滞りなく行えた。 畑かんの地域給水栓は、地域農業者にとって重要な設備であるため、破損等の緊急時に速やかに修繕対応が行えた。</p>	
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業の効果は適正であった。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 農業施設の受益者数 4187戸</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>事業完了した畑かん施設等の維持管理及び建設にかかった事業費の負担金の支払を行ったことで、畑かんの受益者に対し畑かん施設の利用等がスムーズにできた。</p>	

事務事業名	土地改良事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	30	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>◇県営土地改良事業で、事業を実施するための予算と各種土地改良団体が事業を行う、総務的経費を支出する。</p> <p>◇県営土地改良事業等に係る賦課金や負担金、農業土木積算システムの保守費、春日居地区土地改良事業の償還金の支払をする。また、土地改良区の活動支援補助金を交付した。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 委託料 701 負担金 21,668 補助金 810</p>		<p>【目的】</p> <p>◇既存の土地改良区の活動を支援することで農業基盤の安定化に繋がる。</p> <p>◇土地改良事業の償還金を支払う</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇受益農家数 4,978戸</p>				
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円		◇県営土地改良事業等に係る賦課金や負担金、農業土木積算システムの保守費、春日居地区土地改良事業の償還金支払をする。また、土地改良区の活動支援補助金を交付する。	
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円	11,183		11,000
		一般財源	千円	28,382		11,996
	事業費計(A)	千円	28,382	23,179		19,631
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	
	人件費計(B)	千円	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	29,068	23,876	20,328	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長】</p> <p>県土地改良団体等への負担金支払や、地域の土地改良団体等への補助金交付については、滞りなく行えた。合併後も継続している既に終了した春日居地区の土地改良事業に係る償還金の財源となる個別からの徴収については、支所業務から当課へ業務移管されたため、引継ぎ等にまだ不十分な点がある。</p>
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業内容、効果とも適正であった。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 農業施設(畑かん等)の受益農家数 4,978戸</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>県営土地改良事業等に係る賦課金や負担金、農業土木積算システムの保守費、春日居地区土地改良事業の償還金支払をしたことにより施設の維持管理ができる。また、土地改良区の活動支援補助金を交付した。今後も計画的に償還や活動の支援を行っていく。</p>

事務事業名	農業施設整備事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	30	2			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標						
<p>◇市内の行政区等の要望・政策的に整備の必要な箇所を精査し、緊急性・費用対効果等も考えながら年次的に農業基盤を整備する。</p> <p>◇毎年市内の行政区より農道や用水路等の農道基盤整備の要望書を提出してもらい緊急性、費用対効果、優先度を検討するなかで測量調査、工事施行を実施している。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>給料 4,219 職員手当 2,459 需用費 586 委託料 57,500 工事請負費 300,000 公有財産購入費 35,044 補償費 91,200</p>		<p>【目的】</p> <p>◇農業基盤を整備することで農家の生産性が向上し収益が増加する。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇地域要望実施率 38%</p>						
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画		
投入量	事業費	国庫支出金	千円				◇毎年市内の行政区より農道や用水路等の農道基盤整備の要望書を提出してもらい緊急性、費用対効果、優先度、必要性を検討するなかで測量調査、工事施行を実施している。	
		県支出金	千円	19,250	21,456			15,000
		地方債	千円	371,500	434,100			414,200
		その他	千円					
		一般財源	千円	32,355	36,739			18,305
事業費計(A)		千円	423,105	492,295	447,505			
人件費	正規職員延従事人数	人	2.70	2.70	2.70			
	人件費計(B)	千円	18,522	18,806	18,806			
トータルコスト(A)+(B)		千円	441,627	511,101	466,311			
補助事業等		県単土地改良助成費補助金						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長】</p> <p>農道や用水路等の農業基盤の整備は、地域の農業生産性の向上に直結するため、今後もなるべく多くの地区要望に対して実施できるよう継続して行う。</p>	
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業の内容、効果とも期待以上であった。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 地域要望実施率 38%</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>各行政区より農道や用水路等の農道基盤整備の要望書を提出してもらい緊急性、費用対効果、優先度、必要性を検討するなかで測量調査、工事施行を実施した。地域要望件数173件の内、84件を実施、実施率は48%であった。</p>	

事務事業名	資源保全事業費						部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠	土地改良法						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	5	30	3				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標			
<p>◇農地、農業用水路等の資源を、将来にわたり適切に保全し質的向上を図る活動組織を支援する。農業施設の老朽化や小規模な災害に対応した緊急修理等を施工する。</p> <p>◇行政区より農道や用水路等の修繕の要望書を提出してもらい農業施設の老朽化等による破損等の緊急性・必要性を検討するなかで対応している。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 需用費 6,791 委託料 11,400 使用料 1,620 工事請負費 43,000 原材料費 4,210 負担金 28,967</p>		<p>【目的】</p> <p>◇農地・農業用水路等の資源が、将来にわたって保全されるよう整備する。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇整備が終わった地域の農用地面積 16km² ◇地域要望実施率 38%</p>			
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円		
		県支出金	千円	20,450	20,606
		地方債	千円		
		その他	千円		
		一般財源	千円	96,434	75,382
	事業費計(A)	千円	116,884	95,988	110,041
人件費	正規職員延従事人数	人	1.70	1.70	1.70
	人件費計(B)	千円	11,662	11,841	11,841
トータルコスト(A)+(B)		千円	128,546	107,829	121,882
補助事業等		多面的機能支払交付金			

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
<p>1次評価者【課長】</p> <p>農道や用水路等の農業基盤の維持管理は、地域の農業生産性の向上に直結するため、今後もなるべく多くの地区要望に対して実施できるよう継続して行う。</p>	
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業の内容、効果とも期待以上であった。</p>	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 整備が終わった地域の受益農用地面積 16km² 地域要望実施率 38%</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>各行政区より農道や用水路等の修繕補修の要望書を提出してもらい農業施設の老朽化による破損等の緊急性、必要性を検討するなかで修繕・補修の対応をし、48%と目標を達成した。また、整備に対する受益農地面積は、実績値14.7k m²で目標値の92%であった。今後も緊急性・必要性を判断する中、適切かつ迅速に対応していく。</p>	

事務事業名	林道維持管理費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	2	2	50	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>◇市内林道の管理、補修業務及び治山工事にかかる事業を実施する。</p> <p>◇市内林道の管理・補修を行うため年間を通じ定期的に巡回パトロールを実施した。また、大雨で林道が破損したときは関係機関と連携したうえで早期の機能回復に努めた。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 需用費 1,015 使用料 950 工事請負費 29,000 原材料費 720 負担金 10</p>		<p>【目的】</p> <p>◇森林施業が効率的にできるよう林道の管理を行うことで林業振興につなげる。</p> <p>【目標】(数値化できるものは数値目標)</p> <p>◇林道整備 50m</p>				
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
事業費 投入量	国庫支出金	千円			◇市内林道の管理・補修を行うため年間を通じ定期的に巡回パトロールを実施する。また、台風などの自然災害が発生したときは関係機関と連携したうえで早期の機能回復に努める。	
	県支出金	千円				
	地方債	千円	20,000	20,000		10,000
	その他	千円				
	一般財源	千円	28,012	12,695		9,695
	事業費計(A)	千円	48,012	32,695	19,695	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.50	0.50	
	人件費計(B)	千円	3,430	3,483	3,483	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	51,442	36,178	23,178	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長】</p> <p>林道や付帯設備等の維持管理は、地域の林業生産性の向上に直結するため、今後なるべく多くの課題に対して実施できるよう継続して行う。</p>
<p>2次評価者【部長】</p> <p>事業の内容、効果とも適正であった。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 林道整備延長 200m</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>今年度は、蕪入沢の林道舗装工事と市内全域の林道補修管理を行ったが、予定通りの事業が行えた。整備実績 230m。</p>

事務事業名	農林水産施設災害復旧費						部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり					担当名	農林土木担当	課長名	内田 修
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	11	1	1	1	1				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
◇市内農道・農業用排水路の災害が発生した時の災害復旧事業を行う。 ◇災害の発生がなかった。 ◇主な事業費(単位:千円)なし		【目的】 災害が発生したときに迅速に災害復旧ができるようにする。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 災害が発生し破損した農業施設の復旧率				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画
事業費 投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			災害が発生した際、迅速に災害復旧ができるよう災害状況の調査と被害の把握、事業費の確保と業者への的確な指示が行えるよう災害に備える。
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円		0	
	事業費計 (A)	千円	0	0	4	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00		
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	4	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長】 大規模災害等有事の際の項目。
2次評価者【部長】 予算項目として適正である。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
目標 災害が発生し破損した農業施設の復旧率 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった 本年度は災害の発生がなかったため達成度はなし。

事務事業名	プレミアム付商品券発行事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	菱山 一
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H27年度～H28年度)	
	1	7	1	1	30	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 笛吹市商工会によるプレミアム付商品券の発行により、消費者の購買意欲の向上と経済の活性化並びに地元商工業者の維持育成を図る。 ◇主な事業費(単位:千円) 商工会補助金 38,434					(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 実施予定なし 【目標】(数値化できるものは数値目標) 実施予定なし				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画			
投入量	事業費	事業内訳	国庫支出金	千円	108,931			実施予定なし	
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
			一般財源	千円	1,590	38,434			
	事業費計(A)	千円	110,521	38,434	0				
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10					
	人件費計(B)	千円	686	697	0				
トータルコスト(A)+(B)		千円	111,207	39,131	0				
補助事業等		地域創生先行型交付金							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。	
1次評価者【課長・局長】 27年度に続き実施することにより、消費者の購買意欲を継続・高揚させるとともに、地元商工業者への利用促進がなされ、経営の維持・安定化に寄与した。消費者と事業者の双方に有益であり市全体の経済活性化が図られた。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 消費者の購買意欲の高揚は、地元商工業者の経営維持・安定化とともに、消費者においても生活が向上し有益である。	
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 商品券販売額 210,000千円 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった	
購入希望者が殺到するのを回避するため、応募者の抽選制としたが、当選したものの引き換えに来なかった者がいたため、商品券販売実績は 8,887名 200,604千円であった。	

事務事業名	笛吹市創業支援事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	菱山 一
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H28年度～H31年度)	
	1	7	1	1	30	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
<p>新たに創業を希望する者を対象に、創業相談から創業後まで長期に支援する体制を整える。特に、商工会にワンストップ窓口を設置するとともに、創業塾等研修会を開催する。</p> <p>◇主な事業費(単位:千円) 商工会委託料 4,000</p>		<p>【目的】 創業希望者に対し、商工会に創業支援窓口を設けるとともに研修等の開催により、円滑な起業と経営の安定化を図る。</p> <p>【目標】 (数値化できるものは数値目標) 創業者数 46名</p>				
(2) 総事業費の推移		27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画	
投入量	事業費	国庫支出金	千円		商工会において、ワンストップ窓口と創業塾等研修会を開催する。	
		財源内訳				
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
	一般財源	千円	4,000	4,000		
	事業費計 (A)	千円	0	4,000	4,000	
	人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	
		人件費計 (B)	千円	0	6,965	6,965
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	10,965	10,965
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
<p>1次評価者【課長・局長】 消費動向の多様化や就労確保等から創業を検討・希望する者は多い。敷居の低い商工会が創業希望者の相談窓口として積極的対応や支援を行うことにより、活気が生まれ市経済の活性化が期待される。</p>
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】 地域経済に閉塞感を抱く事業者が新たに創業することは、消費の拡大や雇用の確保につながり、地域経済に刺激を与え活性化に寄与することと期待される。</p>
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
<p>目標 創業者数 46名</p> <p><input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>28年度の創業者数は10名であったが、創業までには資金調達等の課題も多く、解決・処理しながら進めるため初年度の創業者は少なかった。</p>

事務事業名	商工関係団体補助費					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	菱山 一
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	7	1	1	30	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績)		(3)平成29年度の具体的な目的・目標				
笛吹市商工会・ワイン会等が実施する各種事業及び運営に係る補助を行い、地域経済の活性化を図る。 ◇主な事業費(単位:千円) 商工会補助金 29,000 ワイン会補助金 850		【目的】 商工関係団体の支援により、事業活動の活性化と組織の育成強化を図り、市内商工業者の育成・振興と会員増加をめざす。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 商工会会員数 1,730名				
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			笛吹市商工会・ワイン会等が実施する各種事業及び運営に係る補助金を交付するとともに、適宜、監督・指導に努める。
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	29,912	30,080	
	事業費計(A)	千円	29,912	30,080	30,001	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	
	人件費計(B)	千円	686	697	697	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	30,598	30,777	30,698	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長・局長】 市内商工業者の64% 1,730名を会員とする商工会の組織育成及び活動強化は、会員の育成・振興につながり、ひいては市経済の発展・活性化に寄与する。
2次評価者【部長・消防長・支所長】 地域経済の中核を担う商工会の活性化は、直接的に地域経済の発展・活性化に寄与する。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
目標 商工会会員数 1,730名 <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
28年度会員数は 1,735名と目標をやや上回った。プレミアム商品券発行事業により新規加入者が増えたとともに、活動助成により地域経済の活性化と地元事業者の維持育成が図られた。

事務事業名	商工振興災害対策資金事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	菱山 一
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H25年度～H29年度)	
	1	7	1	1	30	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 東日本大震災により経営が悪化した事業者に対し、商工振興災害対策資金融資に係る利子について、5年間に限度に補助する。 ◇主な事業費(単位:千円) 利子補助金 2,000					(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 商工振興災害対策資金借入れ事業者に対し、年間利子の全額を補助し、経営の安定化を図る。 【目標】(数値化できるものは数値目標) 利子補助件数 50件	
(2) 総事業費の推移	単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 商工振興災害対策資金借入れ事業者に対し、年間利子の全額を補助し、経営の安定化を図る。	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	7,424	2,124	3,001
	事業費計 (A)	千円	7,424	2,124	3,001	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	
	人件費計 (B)	千円	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	8,110	2,821	3,698	
補助事業等						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。
1次評価者【課長・局長】 商工振興災害対策資金借入れ事業者に対し、年間利子の全額を補助することは、事業者の経営安定化、ひいては市経済の発展・活性化に寄与する。
2次評価者【部長・消防長・支所長】 東日本大震災により経営が悪化した事業者に対して支援することは、本市経済の停滞を招くことなく、商工業の維持・存続及び振興に寄与しており効果的である。
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載) 目標 利子補助件数 150件 <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
補助申請件数は対象予定数の150件であり、経営安定化及び地域経済活性化に寄与した。

事務事業名	緑化推進事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	12	憩いと癒しの空間づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H17年度～)	
	1	6	2	2	40	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要および主な事業費の内訳(平成28年度実績) 笛吹市緑化推進会議を中心に展開される植樹祭や市内緑化事業及び緑の少年少女隊育成事業を支援する。 緑の募金の実施 植樹祭の開催 緑の少年少女隊の育成支援 ◇主な事業費(単位:千円) 補助金 763					(3)平成29年度の具体的な目的・目標 【目的】 笛吹市緑化推進会議に対して補助金を交付することにより緑化推進事業を支援する。 【目標】 (数値化できるものは数値目標) ・緑の募金実績額 2,300千円 ・推進活動参加団体数 8団体					
(2) 総事業費の推移		単位	27年度 (決算)	28年度 (決算見込)	29年度 (当初予算)	(4)平成29年度の実施計画 笛吹市緑化推進会議を中心に展開される植樹祭や市内緑化事業及び緑の少年少女隊育成事業を支援する。 ・緑の募金の実施 4月1日～5月31日(春季 春日居、一宮、八代、境川、芦川地区) 9月1日～10月31日(秋季 石和、御坂地区) ・みどりの少年少女隊の育成支援 ・植樹祭の開催 5月中旬予定				
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	763	763	763				
事業費計 (A)		千円	763	763	763					
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20					
	人件費計 (B)	千円	1,372	1,393	1,393					
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,135	2,156	2,156					
補助事業等										

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載。										
1次評価者【課長・局長】 各地区での活動及び市内各小学校での緑化活動を支援することにより市内全体に「緑を守る」意識が醸成される。植樹祭開催については、植樹箇所の選定に苦慮が見られるものの、有効性を鑑み継続する方向である。										
2次評価者【部長・消防長・支所長】 各地区での活動及び市内各小学校での緑化活動を支援する取り組みは、即効性は無いものの非常に有意義であり、今後も「緑を守る」意識の醸成を継続することが重要である。										
(2) 平成28年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)										
目標 緑の募金実績額 2,327千円 推進活動参加団体数 8団体 <input type="checkbox"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
年度当初計画では、緑の募金実績額 2,327千円、推進活動参加団体数 8団体を目標とした。実績値は、緑の募金実績額 2,283千円、推進活動参加団体数 8団体であり、概ね目標は達成できたと言える。										